

**令和6年度 第2回学校運営協議会
(中央特別支援学校・静岡北特別支援学校 合同学校運営協議会)**

記録 静岡北特支 教務課長

1 日 時 令和6年11月5日(火) 10:00～12:00

2 会 場 静岡県立中央特別支援学校 会議室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

① 中央特別支援学校

静岡市あさはた緑地 管理事務所長 (欠席)
静岡県立こども病院 副看護部長兼教育看護師長 莞認定看護管理者
静岡てんかん・神経医療センター
麻機学区自治会連合会長
静岡大学教育学部 准教授
中央特別支援学校 P T A会長

② 静岡北特別支援学校

常葉大学教育学部 初等教育課程 講師
協同組合 静岡流通センター 専務理事
弁護士法人 ましろ総合法律事務所 代表弁護士
麻機学区自治会連合会 防災委員長
静岡市障害者協会 静岡市障害者相談支援推進センター
静岡北特別支援学校 P T A会長

(2) 職員

① 中央特別支援学校

校長、副校長、教頭、事務長、連携部長兼小学部主事、地域支援連携課長、中学部主事、
高等部主事、病弱学級・訪問教育主任、教務課長

② 静岡北特別支援学校

校長、副校長、事務長、つながる麻活推進課長、地域連携課長、小学部主事、
中学部主事、高等部主事、教務課長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 地域活動の紹介

① 中央特別支援学校

② 静岡北特別支援学校

(3) グループ協議

(4) 閉会

5 会議内容

(1) 開会

① 校長挨拶

【静岡北特別支援学校校長】

- ・中央特別支援学校は昭和 33 年に開校、静岡北特別支援学校は昭和 49 年に開校。両行に共通しているのは、それぞれの障害を持つ児童生徒を対象にした初めての県立養護学校であること、また多くの人々に大切にされてきた学校である。
- ・両校は、災害情報を共有したり、施設を貸していただいたりと、常日頃から協力している。
- ・今回の学校運営協議会を合同で行い、共通の財産である地域の取り組みを紹介し合い共有する。また、委員の皆様のお力を借り、新たな視点を見付、今後の教育活動に生かしていきたい。

② 学校運営協議会委員紹介

(2) 学校取組紹介「地域とつながる教育活動と、その効果について」

① 中央特別支援学校【地域支援連携課長】

- ・生活グループでは、地域とつながる学習として作業学習でペーパーエコバッグ作りに取り組んだ。ペーパーエコバッグは「SDG s の高まりに応じている」、「原材料（新聞紙）が入手しやすい」、「役割分担や分業ができる」、「仕上げは共同で行える」、「バッグとしての価値がある」等の良さがある。
- ・ペーパーエコバッグは麻機緑地センターハウスの駄菓子コーナーで使っていただいた。納品に対し、お礼の色紙をいただくことができた。「頑張って良かった」「喜んでもらえることがうれしい。」という生徒たちの声があり、この学習は、働くことの意欲やキャリア教育にもつながる。また、地域とのつながりを感じられる価値を生かし、今後も授業の中に落とし込み、実践することの大切さを感じた。地域の方々に中央特別支援学校の名前や存在、場所などを知っていただくきっかけになった。
- ・地域とのつながりを題材にした学習での児童生徒の様子の記述や写真を載せ、作成した「地域や社会とつながり合う授業実践シート」を活用し、教員間で情報を共有したり、つながり合う授業のイメージを持てるよう工夫したりしている。児童にとって、また地域にとっての良さの再確認ができる。教員にとっては、次の活動へのヒントを得ることができ、有効である。
- ・小学部では、麻機緑地公園に出掛ける機会を定期的に持っている。今後は、緑地公園に集っての交流の機会を作っていきたい。
- ・学校全体でも、地域とつながる活動を継続し、お互いに分かり合ったり、関係を深めたりし良い関係や環境を整えていきたい。地域支援連携課は、地域との活動が年間学習計画に位置付けられるように支援することが大事だと考えている。また、児童生徒が居住する地域へとつながるよう、素地を作っていきたい。

① 静岡北特別支援学校【つながる麻活推進課長】

- ・「麻活」は、「麻機で生活する私たちの、私たちによる、私たちの活動」を合言葉に、10 年前に高等部で構想し立ち上げられた活動が、現在、学校全体で取り組まれている。
- ・小学部では「遊ぶ、歩く、知る」、中学部では「調べる、伝える」、高等部では「知る、実践、発信、働く」をテーマにして麻活に取り組んでいる。（小学部では麻機地域の公園に出掛け、たくさん遊ぶ。中学部では総合的な学習の時間において、1 年生はハスを中心とした植物、2 年生は生き物、3 年生は地域と協働した活動に取り組んでいる。高等部は総合

的な学習の時間だけでなく、作業学習においてすべての作業班で取り組んでいる。

- ・教員は、つながる麻活推進課と教務課コラボし、「年間指導計画を使ったワークをしよう」研修を実施。年間指導計画表で、麻活に関する活動に印をつけ、単元間のつながりや教科間のつながりを可視化し、単元間や教科間のつながりのイメージを共有したり、今後できそうな活動を考えアイデアを出し合ったりした。

- ・麻活の紹介（写真を見ながら）

小学部…麻機緑地センターへ出かけ、遊具で思い切り遊ぶ活動。学年が上がるにつれて歩く距離を延ばしたり、広い公園に行ったりする。友達と関わったり、植物や生き物に興味を持ったりしながら活動。

中学部…1年生「ハス博士になろう」で実物を扱いながら調べる活動。2年生は、麻機遊水地に生息している珍しい生き物や植物がいることを発見し、紹介し合う活動。3年生は学校給食の食材を仕入れている濱村屋と協働して麻機レンコンを使った調理活動等。

高等部…1年生は遊水地のフィールドワークで定点観測を通し、麻機の自然をより深く知る活動。2年生は国立環境研究所の西廣先生をお呼びしてシードバンク体験。（遊水地の土に眠ったままの植物の種を探し、育てる活動。）3年生は自然観察活動。

10月に行われた麻機遊水地フェスタで、中学部と高等部の作業製品を販売。中学部の生徒からフェスタに参加する高等部生徒に作業製品を預ける機会を作り、学部を越えたつながりも大切にしている。

- ・今後も地域と関わる学習を通し、児童生徒が身近な麻機の価値を学び、主体的に地域に参加するような活動を展開していきたい。

(3) グループ協議・意見交換

1 グループ

- ・静岡北特支の取り組みについて、もっと発信してよいのではないか。また、麻機の良いところそのものについての発信も必要なのではないか。
- ・こども病院、自治会、麻機緑地センターなど協力体制を取りやすい場所。中央特支と静岡北特支の連携も考えてみてはどうか。
- ・ホームページ掲載だけでなく、作ったものなどを実際に手に取ってもらう機会も増やしたらどうか。

2 グループ

- ・中央特支と静岡北特支のつながりを持ちながらの教育を展開しても良いのではないか。
- ・麻機地域の公園の活用や自治会のイベントを今までのように活用してほしい。
- ・教員が代わっても活動が継続されるすごさがある。また、教員が熱心に取り組んでいる。
- ・地域での活動の発信をしていくことが大切。行政や企業等が関わりながら、私たちの発信を知ってもらう、そして地域だけの取り組みだけでなく、静岡市や静岡県の取り組み、さらには国の取り組みとして大きく扱ってもらえるのではないか。

3 グループ

- ・中央特支の取り組みは、生徒にとってやりがいを持てる良い題材の教育。作ったものがお金に代わる経験も必要なのではないか。
- ・保護者から地元との交流をしたいという意見がある。まずは話し合い、共通の視点を得ることが大切。

4 グループ

- ・中央特支の取り組みは「地域を活用したもの」、静岡北特支の取り組みは「地域で生きる」と言える。
- ・麻機地域とつながるこの取り組みを、児童生徒の居住地でどのようにつなげ、広げていったらいいかという視点で話し合った。麻機の良さを見つけるところから、自分たちの居住地の良さを見つけるところにつながると良い。子供たちだけでなく、保護者にも働きかけると良いのではないかな。また、長いスパンで考えて働きかけると良いのではないかな。
- ・居住地とのつながりを持つためのアイデアとして、支援学級と一緒にバザーで出店する、地域の社協に協力を依頼し、何かお手伝いできることをさせてもらう等。
- ・「地域とつながりたい。」という子供たちの気持ちをどう育てるかを考えることも、とても大切。これは今後の宿題でもある。

5 グループ

- ・中央特支の取り組みは、生徒が自分から参加する主体的な姿勢が素晴らしい。静岡北特支は、小中高の12年間の教育課程にベースができているところが良い。児童生徒の見通しや主体性が育っている。体験ベースなので、児童生徒にとって無理がないところが良い。
- ・教員のマインドの継承については、うまくいっているところ、課題になっているところがある。静岡北特支は「麻活はどういうものか」を教員が知るところからスタートしていく必要がある。
- ・児童生徒が笑顔になったり、「これができるようになった。」「こういうことがやりたい。」という気持ちが出てきたりすると、教員の次への原動力になるのも大切。それがベースとなって新しい視点が強みになったり、アップデートされることにつながったりするのではないかな。

6 グループ

- ・麻機地区は昔から土地の整備を考え、地域の人々が協力して整備をしてきた話を伺った。静岡北特支の高等部集中作業で取り入れられないかな。また、中央特支とも一緒に何かができたら良い。
- ・防災をキーワードに話をした。地域とつながっておくと学校や地域の様子が分かり、いざという時に備えたり、お互いに助け合ったりすることができるのではないかな。学校を含めた地域防災について考え直したり、取り組んだりしたい。

(4) 閉会

校長挨拶

【中央特別支援学校長】

- ・活発な意見交換をすることができたことに関して感謝申し上げます。
- ・コロナの感染流行は教育活動にとって非常に大きかった。コロナがあったからこそできるようになったこともあれば、経験をストップしてしまったこともあった。「教員も以前はこういうことをやっていたな。」「地域とこうつながっていたけど、どういうふうにやっていたかな。」ということがある。今日、委員の方からいただいた御意見を、来年度の学校教育、明日からの教育につなげていければと思う。
- ・中央特支は65年以上、この地域で教育活動をしている。それが、どこまで地域とつながっているのか、もう一度立ち返って考える機会になった。これまで先輩方がここで築いてきた教育をしっかりとつなぎ、さらに発展させていきたいと思う。